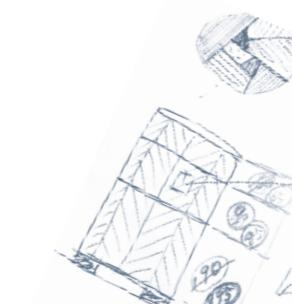
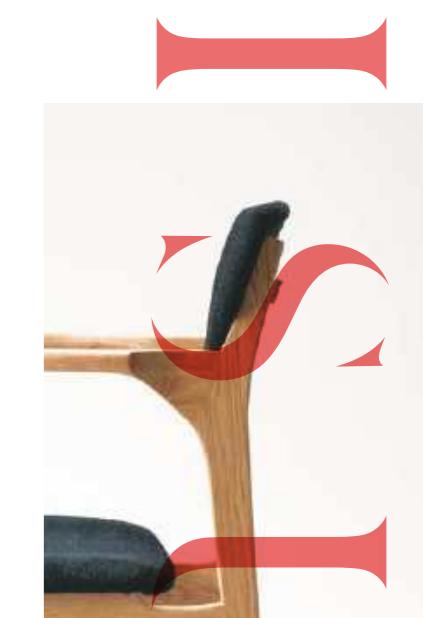
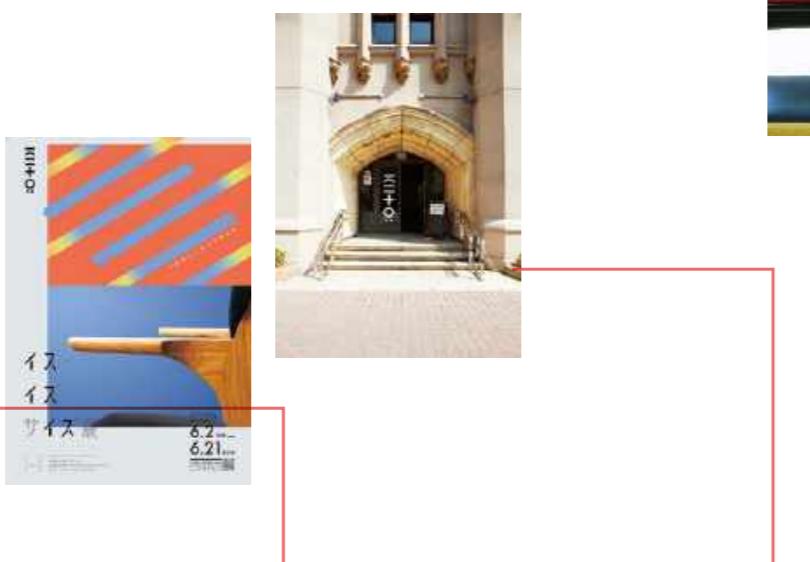


KII+O:



イス。
イス。
「イス」展



もの選びに、
新たな視点を。

KII+O:

Con cept

イス・イズ・サイズ。

例えば靴を選ぶ時。

足のサイズは何センチですか？と聞かれたら
きっと誰でもすぐ答えることができるでしょう。
それも、0.5cm 刻みの細かい数値で。

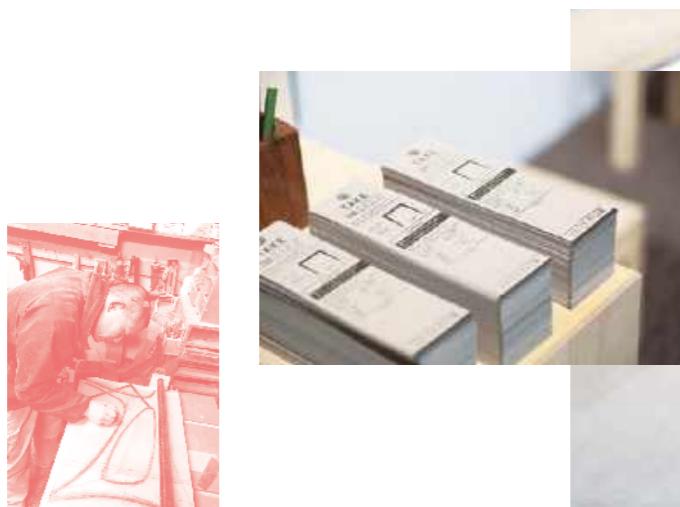
では、「イスのサイズ」を聞かれた時はどうでしょうか。

本来は靴と同じように、
イスにも一人ひとりに適したサイズがあり、
自分のイスを選ぶ基準になるはずです。
けれども多くの方はそれを気にすることなどありません。

イス・イズ・サイズ展では、
これまで日本では注目されていなかった
「イスは、個人に適したサイズやフォルムがある」という考え方をベースに、
9組9脚のイスを製作しました。
使う人に合わせた、完全オーダーメイドのユニークなイスたち。
そこに込められた作り手のこだわりに触ることで、
あなたのもの選びに、新たな視点が生まれることを願っています。



- 03 イス・イズ・サイズ展のつくり方
- 05 イスとサイズの関係性
- 07 作品紹介
- 25 DESIGNER's VOICE
- 26 VISITOR's VOICE
- 27 Special Contents
イス・イズ・ランジェリー?
下着デザイナー×家具デザイナー



イス・イズ・サイズ展のつくり方

“作り手”と“使い手”をつなぐ

「TTTTTAAAAAGGGGG」という考え方。

ファストファッションやジェネリックプロダクト。ものづくりの発展に伴い、様々な製品が低価格で手に入るようになりました。似たような製品を見比べた時、より安い方へと手を伸ばすのは当然のことかもしれません。しかし、ものを選ぶ時の判断基準が「価格」だけに偏ることには、少し疑問を感じます。

ものを選ぶ時の視点は、もっと多様であるべきではないか。素材や産地、製法、作り手のこだわり。KIITOは、「ひとつのものが持つ多様な情報を正しく知り、それをもの選びに生かすことはできないだろうか」と考えていました。

この考え方は、商品についている「タグ」と似ています。普段、消費者が目にするタグには価格や素材など製品の基本的な情報が記されています。このタグを拡張し、より多彩で、より深い情報を消費者に伝えることが、もの選びに新しい視点をもたらすきっかけになるのではないか、と考えました。この考え方、「タグを拡張する」という意味を込めて「TTTTTAAAAAGGGGG」と名付け、展示会の企画に至りました。それが今回のイス・イズ・サイズ展の始まりです。



[制作] 山極博史・杉島郁子 {うたたね}
[ディレクション] 吉田貴紀・栗原里菜 [BYTHREE] 田中裕一 {かたちラボ}
[主催] デザイン・クリエイティブセンター神戸 うたたね
[会場設営] 株式会社POS建築観察設計研究所

PROCESS

企画

家具デザイナーの山極博史氏に企画骨子を打診。展示内容についてBYTHREE、かたちラボとミーティングを重ね、サイズの異なるオーダーメイドのイスを展示することに。



モデル選び

年齢、性別、体格、職業、使い方などが多様なモデルを選別。イスの特徴を際立たせられそうな8組に協力していただけたことが決定。



ヒアリング

コンセプトと設計図

山極氏とインテリアコーディネーターの杉島郁子氏が、一人ひとりに最適なイスのコンセプトを考え、体格に合わせて設計図を作成。



モック製作

形状や素材を吟味しながら仮製作。モデルに座ってもらい、雰囲気を確かめたものも。



実製作

パーツ製作、組み立て、研磨、塗装まですべて手作業。製作期間は1脚あたり1~2週間ほど。



展示会場作り

それぞれのイスに込められた「こだわり」をじっくり感じられるような展示方法を検討。さらに来場者にオーダーメイドを疑似体験してもらうため、「自分のイスのサイズ」が測れるコーナーを設置。



SPACE DESIGN

イスを整然と並べるだけではインパクトに欠けるため、アーチ状のパネルを設置。アーチのオモテ面にはモデルの情報が、ウラ面には作り手のこだわりなどの情報が書かれている。「視点が変わると見えるものが変わる」ことを体験できる会場デザイン。(BYTHREE)



NAMING

まだ展示の内容が固まっていない時、山極氏から聞いた「イスには、靴と同じように自分のサイズがある」ということが企画の軸に。展示名は、イスのサイズにフォーカスしたことと語呂の良さから「イス・イズ・サイズ展」とネーミング。(かたちラボ)

SIZE & CHAIR

家具デザイナー山極博史が考える

イスとサイズの関係性

インテリアブランド「うたたね」を主宰する家具デザイナー、山極博史。コミュニケーションを大切に、一人ひとりの身体や暮らし方に焦点を合わせたものづくりを続ける彼に、イスとサイズの関係性を伺いました。

家具の本場には、「自分のイスを選ぶ文化」があった。

イスとサイズの関係性を語る前に、「家具の本場」と呼ばれている北欧の話をしたいと思います。北欧は冬が長く、家で過ごす時間が長い地域です。その分、家具にこだわる人が多いそうです。

北欧の中でも、特に注目したいのがフィンランドです。フィンランドでは、学校の教育で「ものを選ぶ審美眼」を養うそうです。幼い頃から「このプロダクトは自分に合っているかどうか」を判断する素養が培われているわけです。

そんなフィンランドでは、一人ひとりが家具をオーダーメイドで作るという文化があり、家族それぞれが自分専用のイスに座っています。家族でも一人ひとり体格は違いますし、暮らし方にも違いがありますよね。彼らはそんな違いをイスに反映させているのです。

人が「家具に合わせて」暮らしている日本。

一方、日本人は規格化されたサイズのイスを選び、自分たちをイスに合わせて生活しています。身長、体重、足の長さ。家族でそれぞれ異なるにもかかわらず、全員が同じ規格のイスに座っているとどうなるでしょうか。例えば少し机が低く感じたり、逆に高く感じたり、イスに深く腰掛けられなったり。暮らしの中で感じる小さな負担は徐々に積み重なり、腰痛などの症状につながっていきます。

私がオーダーメイドで家具を作る時は、まず体格に合ったサイズを考えます。それから「どんな風にイスを使うのか」を詳しく伺っていきます。靴を履いたまま座るのか、長時間座っているイスなのか、デスクワークに使うのか。そこまで考えて作られたイスは快適に使い続けられるものになり、本当の意味で「その人のイス」になると思っています。



25cm
のイス
【子ども向け】

35cm
のイス
【玄関スツール】

38cm
のイス
【低めのダイニングチェア】

40cm
のイス
【ダイニングチェア】

42cm
のイス
【ダイニングチェア】

45cm
のイス
【カウンターチェア】

50cm
のイス
【カウンターチェア】

60cm
のイス
【キッチンスツール】

自宅でできる【イスのサイズ】の測り方

STEP.1

イスに座って、膝下が座面と平行になる高さまで、自分の足元に雑誌を積みます。



STEP.2

『座面の高さ』から『雑誌の厚み』を引く。それがあなたの【イスのサイズ】です。



そのイスに座るときは裸足？ 靴を履いているとき？
条件を揃えて測ってください。

オーダーメイド時の細かな測定やヒアリング内容

何に使うか、どこで使うかはもちろん、体格などからベストなサイズを算出。また、現在お使いのイスのサイズ、感じている不満や悩みをお聞きします。その上で、好みの色合いやテイストを伺います。

展示会場でもイスのサイズを測れるコーナーを設置

オーダーメイドを疑似体験できるよう、イスのサイズを測れるコーナーを、展示会場に用意しました。25~60cmの様々な高さのイスに座り、自分に合うサイズを測定できます。会場で配布されるタグに、その測定結果をメモ。「こんなイスがいい」という要望も併記すれば、実際にオーダーメイドする際、注文書として活用できます。



クリエイティブ
ディレクター



model:

吉田 貴紀さん

大阪府吹田市出身。デザイナーとしてキャリアをスタート。複数の制作会社を経て、2013年に「BYTHREE」設立。広告やWEB、プランディングなどの企画からデザインまで手がける。デザインとアートと美味しいものが好き。

「使い手」の要望



過去に腰の手術をした経験があり、今でもたまに腰痛に悩まされます。だから体格の大きな僕の体重をしっかりと支えてくれて、長時間のデスクワークでも腰への負担が少ないイスをお願いしたいですね。作業中はつい前のめりになって体が凝り固まるので、よく背伸びをしてほぐしています。打ち合わせや資料探しで席を立つことが多いので、立ち上がりやすいようなつくりが良いですね。



「作り手」の提案



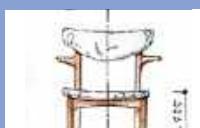
靴を履いた状態でベストな高さを調整

腰に負担がかからないよう、体格に合った座高を設定。事務所で使うことを想定し、靴を履いた状態でベストな高さに調整することに。



短く高い位置のアームで前傾姿勢をただす

使用者は前傾姿勢がクセ。そこでアームの高さと長さを調整し、机とイスの距離が近づく設計に。自然と上半身が起きるつくりを目指します。



思い切り背伸びできる幅の広い背もたれ

凝り固まった体を座りながらほぐすことができるよう、幅の広い背もたれを設計。いつでも安心して背伸びすることができます。

Black bear

ブラックベア

腰に負担がかからないイスを作るにあたって、
目をつけたのは、
机の天板とイスの座面の間である「差尺」。
この寸法を使用者の体格に
ベストフィットな長さにすることで、
体への負担を軽減させます。
前傾姿勢を起こすために短めにしたアームは
デザイン上のワンポイントとなり、
獨特な色気を醸す作品に仕上りました。



detail:



自然と体が中央に位置するよう、アームは内側に向けてゆるやかなカーブをつけています。



アームと後脚の接合部。継ぎ目が目立たないように曲線をスムーズにつなげ、イス全体に色気をもたらします。



背を受ける桟の形状は、強度とともに見た目の美しさも意識。なめらかな造形がイス全体にまとまりを生んでいます。

「使い手」の感想

「座った瞬間に快適」というよりも、使い続けるなかでだんだんと心地よさを感じられるイスでした。足がいつもより楽だったり、力を入れずに席を立てたりと、自然と体に馴染んでいくような感覚です。今回、展示のために一度イスを返却してから気づいたのですが、別のイスに座ると小さな違和感があり、体がBlack bearを覚えていることに気づきました。本当に体格にフィットしていたのだなと、その完成度に感動すら覚えました。



For 3 siblings



3姉弟

彩音さん
真寿くん
千尋くん

3歳、6歳、11歳の3姉弟。長女の彩音さんはテコンドーに夢中で、全国大会3位の実力者。真寿くんは運動が得意で、最近はバク転を練習中。そんな2人をライバル視するのが末っ子の千尋くん。「格闘技を始めたい」と意気込んでいる。

「使い手」の要望



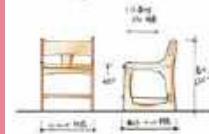
※3姉弟と一緒に、ご両親のお考えをお伺いしました。

みんな育ち盛りで、身長差もある3姉弟。その全員が、仲良く使えるイスがあれば素敵だな、と思っています。ただ、末っ子はまだ3歳ということもあるので、あまり高さがなく怪我の心配がないものがいいですね。ダイニングテーブルと合わせるイスをイメージしているので、部屋の雰囲気に溶け込むデザインをお願いしたいです。子どもたちはそれぞれ好みも異なるので難しいかもしれませんが、3人ともが気に入って、大きくなっても座り続けるようなイスになれば、私たちも嬉しいです。

「作り手」の提案



身長が異なる3人に厚みが異なるクッション
3人それぞれがちょうど良い高さでテーブルにつけるように、厚みが異なるクッションで座高を調整する仕様を採用します。



クッションなしの状態で大人も使える高さに
3姉弟が大きく成長しても使えるよう、クッションを置かない状態で、座高42cmと大人が使えるイスの高さに設計。



部屋の雰囲気に合った深い色味のイスに
ミッドセンチュリー家具を使った部屋の雰囲気に馴染むよう、子ども向け家具に多いナチュラル系ではなく、深い色味の塗料を使用。

Walla by ワラビー

model:

クッションの高さの違いを生かした、
子どもから大人まで座れる作品。
使わないクッションは
イス本体に収納できるつくりで、
必要以上にスペースを取らず、
暮らしに溶け込むイスになりました。
小さなお子さまが使うことを考慮し、
ホワイトバーチ合板という、
強度のある積層合板が使われています。

detail:



高さの違うクッションは、3歳用に8cm、6歳用に5cm、11歳用に3cmの厚みに。全員が同じ高さでテーブルにつけます。



単調なデザインに見えないよう、バーツ同士の接合部は直線的でなく、遊び心のある造形に仕上げました。



シートの形状やクッション収納スペースを考慮しながらも、モダンな印象を与えられるよう、ユニークな曲線でサイドを構成。



「使い手」の感想

どこを見ても角ばった箇所がなく、安心して子どもたちに使ってもらうことができました。3人とも、食事や勉強、お絵かきなど何をする時も座っていて、見えてほっこりします。今回の経験で、これまで既製品の家具を購入する際、どこか妥協をしていたことに気づきました。「使い勝手」や「使い心地」、「部屋に与える雰囲気」など、既製品とオーダーメイドでは満足度がまるで違うように感じています。Wallabyは、長く大切に使いたいと思います。



作品名の由来：デザイナーのかわいらしさや、イスの中にクッションを置く仕様が、ワラビーを彷彿とさせることから
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H) 座高(SH) 単位:cm] W40×D45×H88 SH42.45~47.50
材料/仕上げ塗装：ホワイトバーチ合板・布織/黒ウレタン塗装

For Kyogen Performer

狂言師のイス

狂言師



山口 耕道さん

能楽師、大蔵流狂言方。1954年兵庫県篠山市（現：丹波篠山市）生まれ。四世茂山忠三郎に師事。1981年奉納狂言で初舞台を踏み、1995年に大蔵流入門。2017年に兵庫県ともしびの賞受賞。現在は篠山こども狂言を指導。能楽協会京都支部所属。京都能楽会会員。

「使い手」の要望



葛桶(かずらおけ)をご存知でしょうか。狂言の舞台で使う小道具で、演者はこれを様々なものに見立てて演技します。柿の木に見立てて登ったり、蓋を盃に見立ててお酒を飲んだり。そして、時に「イス」に見立てて腰掛けます。今回、私はこの葛桶をオーダーしたいと思います。狂言は日本が誇る伝統文化で、形式も決まっているものが多いです。だからこそ今回は、「新しい葛桶」を作っていただきたい。新鮮で柔軟な発想から、伝統を打ち破るモダンな葛桶が生まれることを期待しています。

「作り手」の提案



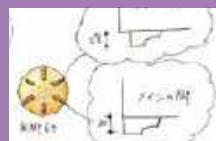
新たな見立てを生む十二角形の葛桶

もとは円柱型の葛桶を、十二角柱に。角があることで光が当たった際に陰影ができ、新たな見立てが生まれることを期待。



もとの機能を残しつつ 今の時代に溶け込むデザイン

従来の葛桶の機能は引き継ぎつつ、紐掛けに真鍮のリングを採用するなど、現代的なデザインを施します。



3本脚を6本に増やしさらなる安定感を

通常葛桶は、安定しやすいとされる3本脚。今回はより安定感を出すため、補助として使う短い脚を3本追加します。

KAZURA

カズラ

能や狂言で使う「葛桶」を
現代的にアレンジした作品。
特徴は伝統的な円柱から脱却した十二角柱。
光が当たると、複雑な陰影が生まれます。
素材にはモダンな雰囲気を醸す
やや明るめのタモ材を採用。
三段組の構造や紐掛けなど、
演技に必要な機能はそのままに、
現代的なデザインにまとまっています。

detail:



座面かつ蓋である上面板は、寄木で構成。「いくつかの力が集まり新しい時代を拓く」というメッセージを込めています。



十二角柱に仕上げたことで、少し枠をずらすと引っかかりが生まれ、各部が取り外しやすくなりました。



曲線が美しい紐掛けは本作のアクセント。小さなバーツながら、モダンな雰囲気を引き立てています。



「使い手」の感想

十二面が揃っている時、ずれている時で様々な表情があり、そのユニークな佇まいに魅力を感じました。それでいて狂言の舞台にも馴染む色合いで、演技に使われない時は存在感を潜めることもできそうです。私たちの演技に呼応して、主役にも脇役にもなれる、新しい発想の葛桶ですね。従来のものと比べ、安定感も遜色ありません。今度、狂言の未来を担う子どもたちへの稽古に使ってみようと思っています。



作品名の由来：伝統的な葛桶に新たな解釈を加え、新しい時代に向けるという意味を込めて作品名をカズラに
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H)]単位[cm]：W27.5×D27.5×H40
材質/仕上げ塗装：タモ柾目・桐・杉・楡・ウカールナット・良田組等/柿漆・オイル仕上げ

For Grandmother



おばあちゃん 瀬間 雅子さん

神戸市垂水区在住。2016年にKIITOで開催した、50歳以上の方を対象にタンスに眠っている着物をリメイクするプログラム「大人の洋裁教室」に参加。洋裁の他にも、ツタや樹の皮を使ったかごや手提げかばん作りなども行う。

「使い手」の要望



私は、趣味で手芸を続けています。特に得意なのが、ツタを使ったかご編み。ですが最近、上手に編むことができなくなってきた。もともとは床に座って作業していたのですが、膝の痛みからイスに座るようになり、それから思うように力が入らなくなったのです。イスの手すり部分が邪魔なのかとも思うのですが、立ち上がる時に使っているし、どうすればいいものかと悩んでいます。かご編みは私にとって大切な時間なので、もし、これまでのように上手くかごを編めるようになるイスがあるのなら、ぜひオーダーしたいと思います。

「作り手」の提案



作業を邪魔しないアーム位置の調整

かごを編む作業は上半身の動きが肝心。腕を自由に大きく動かせるよう、アームの位置を使用者の体格に合わせて低く設定します。



作業時に使わない背もたれは補助的な役割

背もたれもアーム同様、上半身の動きの妨げにならないよう低めに設計。持ち運びやすいよう、薄くて軽い木材を使います。



畳の部屋でも気兼ねなく使えるイスに

脚の仕様は「畠摺り」と呼ばれる形状を採用。重心を分散させ、畠に食い込みにくいように設計します。

Ranana

ラーナ

かごを編む所作を邪魔しないよう、各部の寸法を細かく調整した作品。
部屋の雰囲気や制作されているかごの雰囲気に合った、濃い目の色合いを基調としたデザインにまとまっています。
かご編みの作業だけでなく、普段の暮らしでも役に立つよう、くつろぐための背もたれがあり、簡単に持ち運べるように軽い素材が使われています。

detail:



前脚を斜めに傾け、アームとの接合部を後方寄りに設定。膝の上の空間を広くとれるよう、ミリ単位で調整しています。



立ち上がる際の補助として使えるよう、少し長めで安定感のあるアームに。先端は握りやすい形状にまとめました。



畠摺りの脚は、直線だとのっぺりとした印象を与えるため、カーブの加工を施し、ユニークな見た目に。



「使い手」の感想

作業用のテーブルとイスの高さがぴったりで、大変心地よくかごを編むことができる感じています。特に気に入ったのが、背もたれの高さ。作業で疲れた時にふっともたれるととても楽で、体に合っていることを実感できました。これまで家具はすぐに手に入るものを使ってきましたが、今回の経験で、「自分に合ったものを探す」ことの面白さ、楽しさを発見できました。



作品名の由来：伸びたアームがカエルのように見えることに、イタリアンモダンのイメージを掛け合わせ、イタリア語でカエルを意味するランナを作品名に
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H)] 座面高(SH) 単位(cm) : W55.5×D41.5×H70.5 / SH42
材料/仕上げ塗装: マコニーレ・布等/オイル仕上げ

For Senegalese

高身長のセネガル人

model:
Falil Képin-Yanレイティさん

29歳。セネガル・タガール生まれ。2017年に来日。2019年まで関西学院大学院で金融について学ぶ。同年10月から神戸・元町にある貿易会社に勤務。趣味はスポーツ、ジム、合気道。

「使い手」の要望



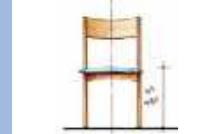
私の身長は190cmあり、一般的な日本人と比べ高身長です。だから既製品のイスや机を使うと、どうしても窮屈に感じてしまいます。仕事はデスクワークが主ですが、作業が長時間におよぶと体の節々が痛くなるようになりました。また、母国セネガルと日本では感性が異なるのか、既製品の中に「これは」と思えるような、自分好みのデザインのイスはありません。日本で暮らす以上、ある程度仕方がないと諦めていましたが、この機会に自分の体と感性にフィットするイスをお願いしたいと思います。

「作り手」の提案



身長や足の長さにフィットする高さを設定

これまでのイスは身長に対して40cmと小さかったため、まずは身長と足の長さを計測し、座面の高さを49cmに設定。



高さに対して狭い座面でスマートなイスに

使用者の体型はスリムなので、高さに対して横幅が狭い設計に。部屋のスペースを圧迫しない、スマートなイスを目指します。



ブルーをベースにした使用者好みのデザイン

使用者の好きな色であるブルーをクッションに採用。スマートな造形に合わせ、光沢のある生地を選定。

Gazelle

ガゼル

高身長の使用者にサイズを合わせた作品。
ただ従来のイスのサイズを大きくするだけでは
間延びした印象になるため、
横幅は使用者の
スリムな体型に合わせています。
各パーツの幅や厚みにも
細かな調整が入っており、
どの角度から見ても美しい、
スマートなプロポーションに仕上りました。

detail:



背もたれ部には薄く加工した成型合板を使用。強度とデザイン性を両立させています。



この字形状の後ろ脚は、折れる箇所を通常のイスより低めに調整。高さのあるイスに、視覚的な安定感をもたらします。



桟と脚の接合部。通常は直線で繋がる箇所に流線型の加工を施すことで、スマートな印象を強めています。



「使い手」の感想

これまでデスクで作業をしていると、すぐに腰が痛くなっていたのですが、Gazelleはずっと座っていても苦にならず驚きました。イスが高くなったのに合わせて机の高さを調節するパーツまでご用意いただいたおかげで、デスクでの作業がとても心地よく感じます。これから家具を購入する時、まずは「自分に合ったものかどうか」を基準に考えるべきだと実感しました。



作品名の由来：ケビンさんのようにスラックとしてかっこいいガゼルをイメージしたのが作品名の由来。
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H)/座高(SH)単位cm] W49-D52.5×H86-SH49
材料/仕上げ塗装：ホワイトオーク タモ成形合板・布等 オイル仕上げ

m o d e / .



ピアニスト

林 あゆみさん

大阪教育大学大学院芸術文化専攻音楽研究コース修士課程修了。第12回秋篠音楽堂室内楽フェスタ第1位など、数々のコンクールで入賞。平成27年度公益財団法人青山財団奨学生。現在は常磐会短期大学兼任講師、ヤマハ音楽教室講師を務める。

「使い手」の要望



ピアノの演奏に使うイスは画一的です。どのイスにも高さを調節する昇降ダイヤルがついていて、形は長方形のものばかり。コンクールや音楽教室では、ひとつのイスを多くの人が使うので当然のことなのかもしれませんか、もし自分専用のイスがあれば、演奏がどんな風に変わるだろうとワクワクしました。例えば、私は左足を踏ん張って演奏するクセがあるので、そのクセを生かした形のイスがあれば、もっと力強い音色が出せるのではないか、と期待しています。



「作り手」の提案



演奏者のクセを反映した左右非対称の座面
演奏者の左足に着目し、左角をへこませた座面を設計。左足を自由に動かしやすいイスにします。



昇降ダイヤルを座面下に収める設計

通常は外側についている昇降ダイヤルを座面下に格納。コンクールでドレスを着た際に引っかかる恐れがなくなります。



レッスンや連弾に使える広めの横幅

使用者はピアノの講師。指導時にイスを2脚並べずに済むよう、通常の約1.3倍の横幅に設計。二人座って演奏できます。

M.S.

ミスバタフライ

butte r

f ly

detail:



座の形状は、足の動かしやすさを強く意識。左だけでなく、右側も角度を大きく設計しています。



演奏時に観客から見える、斜め後ろからの角度が美しく見えるように設計。角の丸みにも細かな調整を入れました。



落ちていたイスの雰囲気に合わせ、ダイヤルも木製にこだわり、違和感なくまとめ上げました。



「使い手」の感想

姿勢を変えなくても左足に力を入れられるので、より力強い音色が出せるようになりました。広い座面にはドレスの裾が乗るので、引っかかる心配もなくなり、演奏に集中できるようになりましたね。ピアノのイスは画一的なので、思うままに演奏できなくても「イスを変えよう」という発想は生まれません。だからこそ「自分専用のイスだと演奏が変わるんだよ」と、仲間たちに伝えていきたいですね。



作品名の由来：ドレス姿とピアノを強く印象がエレガントで豪華な雰囲気をイメージさせることから
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H)単位cm]：W66.5×D34.4×H48~56
素材/仕上げ塗装：ウォールナット・革等/柄漆・オイル仕上げ

For Dog Lover



愛犬家

タナカ サヨコさん

兵庫県西宮市出身。愛犬マーロと共にほほんとすごす。好きな人たちにできるだけ会い、好きなところにできるだけ行き、好きなものをできるだけ食べるがモットー。

「使い手」の要望



普段、私はWebデザイナーとして自宅でデスクワークを行っています。だから作業に集中できるイスがほしいのですが、同時に愛犬とふれあうことができればいいな、と思っています。かまってほしそうな時にはすぐに可愛がってあげたいし、おやつだってあげたい。もちろん、仕事中は目を離すこともあるので、いたずらしないようにリードをかけられたらいな、とも思っています。また、職業柄パソコンでの作業が多いのですが、今のイスに長時間座っていると、腰に痛みを感じることがあるのも悩みのひとつです。

「作り手」の提案



アームを片方だけにして姿勢を変えやすく
愛犬が近くにいる時、また腰に負担を感じた時。
すぐに姿勢を変えられるよう、アームレストは片方だけの設計に。



おやつを手元に置いておくポケット
おやつ用のポケットをアーム部分に設けること。
おやつをあげたい時、その都度立ち上がりずに済みます。



リード掛けはイスのデザインの一部に
リード掛けとして「ツノ」を少し長めに設定。機能性だけでなく、デザインのアクセントとしてまとめます。

Fiddler

フィドラー

木部フレームのシンプルな構造ながら、
片方だけのアームが特徴的な作品。
アームの先端部や座面などの
角に入った丸加工が、
やさしい印象をもたらします。
座面には、腰に負担がかかりにくい
ウレタンスプリングの二重構造クッションに、
犬の爪がひっかかりにくい
モケット生地を使用しました。

detail:



使用者の姿勢から設計したアーム。先端を握って落ち着けるよう、おやつ置きの位置は少し後ろに調整。



三角形に削り込まれたツノ。通常より長めでありながらも主張せず、シャープな印象に。



座面はあえて左右非対称に。作業中に姿勢を変えても安定性が出るように調整を入れた形状。



「使い手」の感想

うちの犬は、私が仕事を始めると、気を引くために吠えたり書類を散らかしたりと、困る部分もありました。Fiddlerを使い始めてからは、そばにいる時間が長くなって安心したのか、大人しく過ごしてくれています。私も仕事に集中できるようになり、腰が楽になったと感じました。作業中にふと横を見ると、すぐそばで気持ち良さそうに眠っていて、その姿が愛おしくて癒されています。



作品名の由来：片方のアームがバイオリンを弾いているようなイメージなので、バイオリン奏者を指す英語フィドラーから命名
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H)/座面高(SH)] W57×D50×H80/SH41
素材/仕上げ塗装：ホワイトオーク・タモ・布/オイル仕上げ

Chair made 20 years ago



元
アクセサリーショップ
オーナー

吉岡 真由美さん

1999年から約20年間、海外から輸入のヴィンテージアクセサリーやオリジナルのアクセサリーを扱うショップオーナーと作家を兼業。現在は、第一線から退く。

「使い手」の要望



今から20年も前の話です。経営するアクセサリーショップの工房で、ジュエリーを加工するためのイスが欲しいと思っていました。ジュエリー加工は細かい作業になるので、同じ姿勢で集中して行わなければなりません。そうするとどうしても腰やおしりが痛くなってしまうので、その点を解消できるようなイスがほしい、と山極さんに相談しました。工房は店頭からも見える位置にあったので、デザインについてもショップの雰囲気を損なわないものが良いとお願いしました。

「作り手」の提案

省スペースのスツールを提案

工房のスペースが限られていたこと、作業は前傾姿勢で行われることから、背もたれのないコンパクトなスツールを提案。

骨盤を立たせるカーブ状のクッション

作業時に腰やおしりに負担があまりかからないよう、クッションをカーブ形状に。骨盤が立った状態をキープできます。

店の雰囲気に合った愛らしいデザインに

作業に必要な機能を持たせつつも、お客様の目に入っても店の雰囲気を損なわないよう、愛らしいデザインを目指します。

ne n e

ネネ

作業時の姿勢に気を配った
大きな座面が特徴的な作品。
鮮やかな赤色がアクセントとなり、
和のテイストを醸します。
この作品ができたのは20年前ですが、
ジュエリーショップに足を運んだ方々から
「自分も欲しい」というご要望が続き、
うたたねのロングセラー商品となりました。

detail:



体の負担を最小限に抑えるため、スツールとしては大きな座面を設計。素材は密度の高いウレタンスponジを使用しました。



工房には畳が敷かれていたため、畳を傷つけにくい板脚を採用。4本脚より重量があり、作業時の安定感も得られます。



和風の工房に置くことから、全体のフォルムは凛と立つ鳥居のイメージに仕上げています。



「使い手」の感想

お店では何より接客を大切にしていたので、お客さまが見えたなら作業中でもすぐに立って商品の説明をしていました。だから頻繁に立ち上がるのですが、neneはその動作をとても楽に感じさせるイスでしたね。長年使用していますが、腰痛など体への負担を感じることはあります。私自身はアクセサリーデザイナーの仕事からは退きましたが、neneは引退せず自宅で活躍し続けています。

model:

ある谷の妖精さん

好奇心旺盛なやさしい男の子。
直立したコビトカバのような風貌。パパとママと3人暮らし。冬になると家にこもって冬眠する。
体の大きさは「フィンランドの電話帳くらいのサイズ」らしい。

「作り手」 の提案



身長10cmほどの彼に
ぴったりのイスを

身長が小さく、足が短い彼が座つても足がぶらぶらしないよう、足乗せ台を用意。しっぽが後ろに流れよう、背もたれと座面の間に隙間も空けた設計に。



憧れのロッキングチェアを
彼独自の仕様に

憧れのパパが座っているロッキングチェアをベースに、ウイングのついた背もたれなど、彼のためのオリジナルデザインにまとめます。

Kai puu

カイプー



もし、架空の生き物のためにイスを作ったらどうなるだろう。打ち合わせ中にふと上がった話題を、山極さんが実際に形してくれました。とても小さなイスですが、他のイスと同じくらい、こだわりが詰まっています。

detail:



背もたれのウイングやアーム部分は、小さな手で握ってしつくりくるような厚みに仕上げています。

底部のアール形状は、ゆるやかに揺れるように調整。うとうと昼寝を楽しめるイスを目指しました。

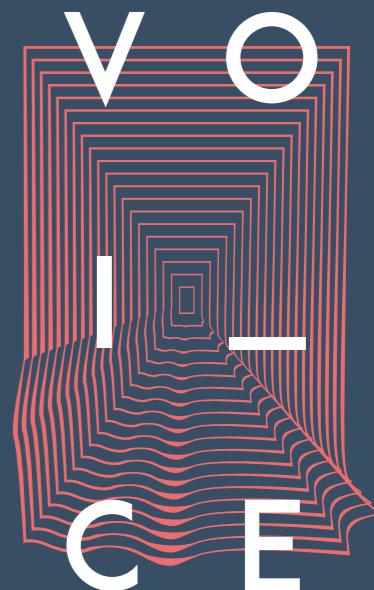
足乗せ台の位置は、彼の体格と足の長さから割り出した結果、人が使うイスでは見られない位置になりました。

作品名の由来：パパが座るイスへの「あこがれ」をフィンランド語で意味するカイプーに。なぜフィンランド語かはご想像におまかせします
サイズ[幅(W)×奥行(D)×高(H)/座高(SH)]単位cm: W13×D11.5×H15/SH6
材料/仕上げ塗装: ニレ・布等/オイル仕上げ

I S U

L S

S I Z E



家具の「作り手」たちは、イス・イズ・サイズ展をどう見たのか。そして、展示に足を運んだ「使い手」たちは、何を感じたのか。本展に集まった様々な声を紹介します。また、会期中に開催されたトークイベント「イス・イズ・ランジェリー？」のレポートも掲載。イスとランジェリーという異なる2つの視点から「これからのもの選び」を考えます。

DESIGNER's VOICE

VISITOR's VOICE

Special contents

イス・イズ・ランジェリー？

下着デザイナー×家具デザイナー

デザイナーの声

イスを知り尽くす、
家具職人やインテリアデザイナー。
彼らは今回の展示を、
どのように見たのでしょうか。
会場で配布した
タグでも紹介した職人たちに、
感想をお伺いしました。

対話の重要性が伝わる展示。

小寺 昌樹 _ Magical Furniture/magical-f.jp

座り心地というものは、サイズ含めて感覚に頼る部分が大きいです。今回の展示からは、使用者の感覚に寄り添おうと対話を重ねたことが伝わってきました。理論だけではなく、職人の姿勢にもスポットが当たった貴重な展示ですね。



もの余りの時代に、ものを作る意義。

西良 順行 _ wedge FURNITURE STUDIO/studio-wedge.com

今はもの余りの時代だからこそ、あえて新たなものを作るなら「ユニークさ」が必要だと常々考えています。その点、今回展示されていた作品はどれも個性的。ものづくりの意義を感じさせるものばかりでした。

使い手がサイズを意識すれば、 作り手の発想はさらに広がる。

新木 聰 _ REAL BASIC DESIGN/realbasic-design.com

「イスのサイズ」は、作り手にとっても取り組みにくい課題の一つでした。今回の展示でサイズを意識する人が増えれば、私たち作り手も新たな提案を発信しやすくなり、多様な発想が生まれるのではないかでしょうか。



機能性とデザインの融合。

岡田 光司 _ isDesign/koji-okada.com

イスにとって、座り心地や機能性は重要な指標です。人間工学的に考え、設計されたフォルムは美しいデザインとなる。展示作品を通して、多くの人に「機能美」という視点が生まれると嬉しいですね。

D

S

G

N

2 — 5

R

VISITOR's VOICE 来場者の声

来場者の皆さんには、どんな気づきや発見があったのでしょうか。
会期中に実施したアンケートの回答をご紹介します。

20代／女性
自分の体にあったモノ、生活に
そつたモノは、人生を豊かに
してくれると思った。

デザインというものが今までよくわかっていたが、この企画を見て、個々人の問題解決がデザインになるのだとわかった。これらがさらに社会全体の問題提起につながるのであろうと思い、この展示の意義を感じた。
20代／男性

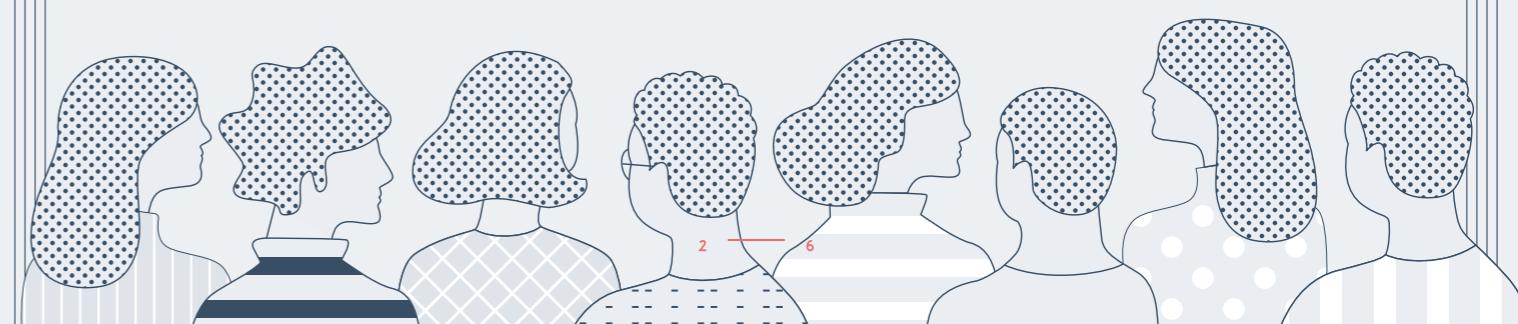
10代／女性
タグに書き込むのが楽しかったです。アート過ぎず、誰もが身近に楽しめる企画をまたしてほしいな
と思いました。
50代／男性

用途によって、デザインだけではなく
イスの形 자체も変わったり
するのが面白かった。
40代／男性
うたたねの世界をじっくりゆっくり楽しめて、心身共にリフレッシュできました。展示空間も一体感がありながらそれぞれのイスを楽しめて、とっても良かったです。

50代／女性
「テーマや意味を深く考えて形づくる」という、あたりまえながら難しいことの面白さ、それに取り組む姿勢の大切さを再認識しました。

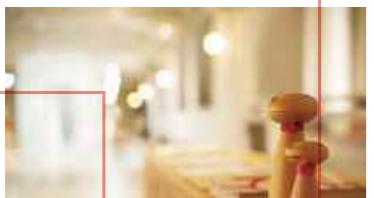
普段「座り心地悪いな」と感じても、それ以上何も考えたことがなかったけれど、座り心地の悪さ・良さにはちゃんととした理由があるんだなと思いました。
20代／女性

「イス」という身近なですが、その世界の広がりを感じることができました。ものの作り手と私たちとの距離を近づけてくれるような素敵なお展示でした。
30代／女性





M e s s s a g e



もの選びに、
新たな視点を。

これまでとは違う視点から「もの」を見て、
新しい魅力に気づいてほしい。もの選びを楽しんではほしい。
それが、イス・イズ・サイズ展で伝えたかったメッセージです。

体格に合わせるのか。暮らし方から考えるのか。
なんでも簡単に手に入る時代だからこそ、
どんなプロダクトが自分に合っているのか。
一度立ち止まって、もの選びと向き合ってみてください。

きっとそこには、これまでにない愛着が、生まれているはずです。

イス・イズ・サイズ展 — もの選びに、新たな視点を。

[日 時] 2020年6月2日(火)～21日(日)、7月7日(火)～26(日)

11:00-19:00 ※月曜休館

[会 場] デザイン・クリエイティブセンター神戸1F ギャラリーB

[制 作] 山極博史・杉島郁子〔うたたね〕

[ディレクション] 吉田貴紀・栗原里菜〔BYTHREE〕 田中裕一〔かたちラボ〕

[デ ザ イ ン] 喜田周作〔BYTHREE〕

[主 催] デザイン・クリエイティブセンター神戸 うたたね

[会 場 設 営] 株式会社POS建築観察設計研究所

イス・イズ・サイズ展 ドキュメントブック

デザイン・編集・制作 BYTHREE inc.

発行 デザイン・クリエイティブセンター神戸

651-0082 神戸市中央区小野浜町1-4

本書は、イス・イズ・サイズ展の成果報告として発行されました。
本書の無断複写、転載、引用などを禁じます。

© Design and Creative Center Kobe All rights reserved.

